



させぼ夢大学

発行●公益社団法人 させぼ夢大学
編集委員会
事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
<https://www.yumedai.com/>
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.351 〈2025・9〉

令和7年度
第6回

2025年**9月17日(水)**
アルカスSASEBO 大ホール

開 場 17:30
夢のひろば 18:00
講 演 18:30(終了20:00)

第6回講演会の講師は、政治ジャーナリストの青山和弘さんです。

青山さんは、千葉県流山市出身。東京大学文学部社会心理学科卒業後、1992年に日本テレビへ入社。警視庁や首相官邸を担当。その後、編成部へ異動し、報道キャスターや報道デスクを務めました。

1995年には、米国コロンビア大学東アジア研究所客員研究員として勤務。2011年、外報部ワシントン支局長となり、オバマ大統領、アメリカ大統領選挙などを取材。2016年に国会官邸キャップとなり、森友・加計学園など、様々な問題を取り扱いました。

2021年9月に独立し、政治ジャーナリストとしての活動を開始。多く



のテレビ番組出演の他、執筆や講演活動、青山学院大学客員研究員としてもご活躍です。

政治記者として、足掛け30年。羽田政権から石破政権まで16の政権に関わり、日本の政治や外交を直接取材する中で、永田町や霞が関に与野党を越えた幅広いネットワークを築かれています。

取材したことを大切にしながら、その経験と認識に基づいて、わが国に何が必要なのかを冷静に分析。様々なメディア媒体を通じて、わかりやすく解説されています。

今回は、これまでに取材した内容をもとに、テレビでは話せない政治の舞台裏をお話いただけることでしょう。今から楽しみです！

講 師 ● 政治ジャーナリスト あおやま かずひろ **青山 和弘 氏**

テーマ・テレビでは話せない政治の舞台裏



次回のご案内

■と き／10月15日(水) 18:30～20:00

■講 師／俳優 いちげ よしえ **市毛 良枝氏**

■テーマ／介護における自然の大切さ

●静岡県出身。文学座附属演劇研究所、俳優小劇場養成所を経て、ドラマ「冬の華」で1971年デビュー。以降、テレビ・映画・執筆・講演と幅広く活躍。40歳から始めた登山を趣味とし、キリマンジャロやヒマラヤの山々に登っている。環境問題にも関心を持ち、1998年度に環境省の環境カウンセラーに登録され、特定非営利活動法人日本トレッキング協会の理事も務めている。

9月の講演会は第3水曜日です。

青山 和弘 氏のプロフィール

●1968年、千葉県生まれ。青山学院大学客員研究員。元日本テレビ政治部次長兼解説委員。日本テレビ「news every.」のレギュラー解説の経験あり。

2021年9月に独立し、政治ジャーナリストとして活動。これまで、羽田政権から石破政権まで、16の政権を取材。与野党を問わない幅広い人脈と、わかりやすい解説に定評がある。



させば夢大学講演会

大声と笑いで生きる明日への活力

講師／神田 紅 氏



神田 紅 氏



夢大学の醍醐味

佐世保市大和町 新北 博美

講師の神田紅さん。実際に講談を見るのは、初めてでした。

明るく張りのある声で、言葉も、とてもわかりやすく、楽しい話術で、「明るく楽しく、わかりやすい」を体現されていると思いました。講談とは、敷居が高いものだと思っていたのですが、とても親しみやすく感じました。思いかえせば、普段大きな

声を出すことがなく、久しぶりの大声の発声で楽しかったです。息を吐ききらないと、吐かない・儂い命。息を吐ききってしまえば、その分、新鮮な空気が多量に入ってくるため、まずは深呼吸。そこに、前向きな言葉を大声で、と思いつつ、家に帰ると、気兼ねなく大きな声を出せる場所が見当たらず、とりあえずは鏡に向かって微笑んでいます。

元気と笑いで、心身の健康

佐世保市南風崎町 横山 春美

「夢のひろば」は、ソプラノ

大きな声を張り上げて、トーン・トーン・トーン

佐世保市八幡ノ森町 松井 昭夫

アルカスの大ホールが、興奮のつぼと化した。

中村天風氏のことは、詳しく知りませんでした。積極的思考、心の健康等、よりよく生きていくうえでの大事なことを少し知りました。初めて直に講談にふれ、中村天風氏のことまで知れて、まさに、夢大学の醍醐味を感じた1日でした。



■神田紅氏の講演で、この暑さも吹っ飛び、元気をいただきました。心の元気が大切なこと、本当によくわかります。自分を甘やかしては駄目との言葉が、心に沁みます。

佐世保市潮見町●永田 光江

■神田紅氏の講演を聴き、とても心が明るく上昇しました。何か生徒のような気分になりました。私が大好きな中村天風先生の言葉も確認でき、積極思考の気持ちで生活していきたいです。

今日は、とても明るく帰ります。明日も、前に向かって生きます！

佐世保市陣の内町●井手 孝広

■「夢のひろば」の歌声とピアノ、素敵でした。

初めて講談を聴きました。受講生も参加させていただき、涙が出るほど笑いました。当日は、楽しい思い出になる誕生日となりました。

これも、させば夢大学に長年通っているおかげです。ありがとうございます。

佐世保市木風町●西 照美

■私は、今回のさせば夢大学で、初めて講談を知りました。受付で、『いざ鎌倉』の資料を渡され、何かするのだなと思いましたが、初めての講談はとても貴重な経験になりました。

声を出すストレス発散になる、拍手をすると眠気が落ち着く。これらを実践していきたいです。

佐世保市小島町●高増 香里

■「過去を振り返らず、前を向いて生きていく」、「あきらめない心」が大事である。厳しい世の中であるが、とてもよい刺激になった言葉であった。

日本で数少ない伝統芸能を、今後とも継承してもらいたい。

佐世保市潮見町●山田 毅

■素敵なお声が、客席の後ろから！「夢のひろば」の演出、すばらしかったです。暑さがとぶような、爽やかな気持ちになりました。

また、初めて講談を聴き、元気をもらいました。会場も笑いであいっばい。とても楽しかったです。

過去を振り返らない、明日に向かって、笑顔で日々を過ごす。これらが人生を楽しく過ごすために、大切なことと心から思いました。

佐世保市大宮町●田中 美禰

■配られた講談の資料を神田紅氏が張りのある声で、少しずつ読み進める。会場の私たちは、そのマネをしなから、声を出す。初めは、気恥ずかしかったが、周りの声とともに、私の声も次第に大きくなる。会場が一体となって、快い時間を過ごした。

その後、実際に神田氏の講談を聴き、何だか大きな力をもらったような晴れ晴れとした気持ちで、会場を後にした。

佐世保市もみじが丘町●山川 芳香

独唱とピアノ。どこからか歌声が、と思いきや1階席後ろからの登場。粋な演出で始まり、「浜辺の歌」など、透き通るような美声を堪能した。古賀理事長は、挨拶で、戦後80年やウクライナ、ガザ地区にふれて、戦争のない、起きない世界を強調された。最近の一部議員の「安上がり核」などの論調は、看過し難い。

今回の講演は、神田紅さん。大いに元気をもらった。

大声を出すことでストレス解消など、テーマの「大声と笑いで生きる明日への活力」そのものだった。プロファイールと生の姿から感じることは、努力家で、パワフルで、プラス思考の多才な講談師。それを裏付けるように、多種多様なジャンルで活躍されている。同じ福岡に縁があり、パワフルに活躍した思想家、中村天風氏に心酔されている訳がわかった。

「あきらめない強い心」、「過去を忘れる」、「心の元気」などを力説された。今後も元気が笑い、そして講談の魅力を振りまいてください。

③① 中村 義治 なかむら よしはる
③② 青木 月斗 あおき げっと

佐世保史談会 名誉会長 なかしま まさすみ
中島 眞澄

を開店。同二三年、「(株)エレナ」となる。同一年四月、会長就任、同一年五月には、相談役に就任した。

その間「(株)エレナ」は県内だけでなく、佐賀県にも進出し、令和二年(二〇二〇)現在、六八店舗に拡大し、地場企業のトップに躍り出ている。「私たちは心を満たす笑顔で、地域ナンバーワン店舗を目指します。『また来ようね』と言ってもらえるお店創り」を会社のビジョンとしている。

経営に尽力する傍ら、「佐世保剣道協会」に籍を置き、人一倍熱心な稽古に励み、昭和三八年には七段に昇段し、やがて理事長となった。



中村 義治

③② 青木 月斗(本名・新護)

(二八七九〜一九四九)
俳人

明治二年(一八七九)、大坂市船場にて誕生。大坂薬学校(現大阪大学薬学部)に進むが中退し、「青木薬房」を継承。母親の影響で俳句を始め、後年この家業を廃して、俳句に専念。雄渾な書風でも高い評価がある。



青木 月斗

明治三〇年(一八九七)頃より、『ホトトギス』に投稿して、正岡子規に力量を認められ、与謝蕪村の俳風を学んだ。最初の号は月兎。同四〇年、「月斗」と改号した。
大正五年(一九一六)、雑誌『カラタチ』を、同九年、俳誌『同人』を創刊し、終生主宰した。しばしば佐世保に来訪し、俳句の新興に貢献。犬塚皆春四兄弟、川原田蒲公英等を輩出し、西日本俳句界の雄として衆目を集めた。
福田町の山水楼跡、母ヶ浦、弓張岳中腹の白雲万里莊跡など、市内各地に句碑が残されている。
福石観音境内には「竹の春ここよりをがむ清巖寺」
鶴戸越から見た風景の大きさが印象深い
「銀河寂々 船大洋を南す」
江迎町の寿福寺境内には、弟子山下靖夫の戦死悼句がある。
「龍天に昇る国たみ仰ぐなり」
辞世の句は、
「臨終の庭に鶯鳴きにけり」
没した三月一七日は、「鶯忌」と呼ばれる。

(敬称略)

事務局だより

★神田紅さん、ご講演ありがとうございました。

カジュアルな格好から着物への変身。
舞台の袖で、出番を待つ着物姿の神田紅さん。起立のままのその姿は、凜として、講談師としての気迫を感じました。

最初は、気さくで、どこにでもいる普通の方という感じがしました。が、いざ着物を着ると、スイッチオン！ 目つきや話し方が、ガラリと変わりました。

地元の福岡に近いことから、少し足を延ばし、度々佐世保へ来ていただければ、ありがたいと思いました。

★歌声とピアノの音色が、大ホールに響きました！

「マイクなしで、広い会場に声が届くでしょうか？」
そう心配されるソプラノの富永珠未さん。

リハーサルにおいて、2階席や3階席の奥に動いた舞台担当から、大きな「〇」のサインをもらい、ニッコリ。安心して、肉声の歌を披露されました。

江口友規子さんのピアノ伴奏も、軽快なタッチで音が繊細。お二人の息の合った歌と演奏は、私たちの心にも、大きく響きました。

★「優先者席」を希望される方へ！

「体調の関係で、優先者席がよいのですが。」
「トイレが近いので、優先者席に座らせてください。」
このような理由で、最近、優先者席を希望される方が増えています。

「優先者席」とは、1階席の出入り口近くの後部座席を指しており、「優先者席」の受付を通じてご案内する席のことです。

通常、足の不自由な方を対象としており、現在17席を用意しています。席が限られていますので、譲り合ってお座りください。

ただ、講演が始まりましたら、ご案内できなくなりますので、優先者席を希望される方は、できるだけ早めにお越しください。

★来年度の受講生募集について、順次お知らせします。

先月の「夢のつづき」に、来年度の「講演会予定日」を掲載しましたが、ご覧いただけましたでしょうか。

今後、「夢のつづき」の紙面には、来年度の講師予定や申込みの方法等、順次掲載していく予定です。

来年度は、会場の関係で、8月末までの8回開催となります。皆様には、引き続き興味をもっていただき、再び会場でお会いできることを、切に願っています。